

## 序文

金元時代の有名な医家である竇漢卿は、「却病之功，莫捷於鍼灸」（病を去る効果において鍼灸より速いものはない）と述べている。鍼灸の技術は、数千年にもわたる臨床現場での検証を経ており、正しく用いられさえすれば、大きな効果が得られる。私は50年以上にわたる臨床経験から、鍼灸にはたしかに起死回生ともいえる効果があることや、たとえ難病であっても即効性を示し得ることを実感している。鍼灸とはまさに我が国における医療技術の宝であるといっても過言ではないだろう。いま、鍼灸技術は世界的な注目を浴びており、地球規模での鍼灸熱ともいえる状況にある。これはつまりわれわれが歴史的な責任を担うということの意味する。われわれがたゆむことなく鍼灸技術を高め、鍼灸体系をより完全なものとするではじめて、現代科学のスピードに適應することができるのである。鍼灸にはすでに数千年の発展の歴史があり、豊富な臨床経験の蓄積があるのは確かである。しかしながら弁証論治体系はいまだ完全なものではなく、特に経脈病候とその論治に関しては内容的に不十分であると言わざるを得ない。北京中医薬大学の博士課程指導教官でもある張吉教授は十年以上にわたって研究に専念し、何度もの改稿を経て、ついに十二経脈・奇経八脈の弁証論治および鍼灸論治体系、理・法・穴・術すべてを網羅した本書を完成させ、鍼灸弁証論治における空白部分の補填を為した。このたび本書を拝読し、非常に勇気付けられた思いであり、喜んで序文を書かせていただいた。これをもって祝賀としたい。

中国工程院院士 程 莘農